

FY2025

2025年度 決算説明会資料

1. 2025年度 通期実績
2. 2026年度 通期業績予想
3. 重点施策
4. 参考資料

1

2025年度 通期実績

2025年度 通期実績

2025年度通期 連結業績

(単位:億円)

	FY2024 通期実績	FY2025 通期実績	前期比
売上高	6,712	7,723	+1,011
事業利益	133	360	+228
ブラマー カカオ特殊要因	▲305	▲104	+201
親会社の所有者に帰属する 当期利益	39	111	+73

ブラマーに係る減損損失の計上及び
繰延税金資産の取崩しについて

米国における需要の低迷による販売数量の減少や管理強化に伴う固定費増加等により2025年度において当初の事業計画と実績に乖離が生じたことから、減損損失の計上及び繰延税金資産の取崩しを実施。

(単位:億円)

	金額
のれんの減損損失	▲41
繰延税金資産の取崩し	▲51
計	▲93

売上高 7,723億円 前期比 +1,011億円

植物性油脂事業及び業務用チョコレート事業の原材料価格上昇に伴う販売価格の上昇により増収。

事業利益 360億円 前期比 +228億円

植物性油脂事業のチョコレート用油脂(CBE)の堅調な販売や、業務用チョコレート事業ブラマーでのカカオに関連した特殊要因(以下、カカオ特殊要因)の費用減少を主因に増益。

当期利益 111億円 前期比 +73億円

業務用チョコレート事業でブラマーに係る減損損失の計上、繰延税金資産の取崩しを実施したが、植物性油脂事業の伸長やブラマーでのカカオ特殊要因の費用減少により増益。

* 2025年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。2024年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

* 上記の連結業績は億円未満を四捨五入した数値を表示。

2025年度 通期実績／事業別

2025年度通期 事業別業績

(単位:億円)

	FY2024 通期実績	FY2025 通期実績	前期比
売上高	6,712	7,723	+1,011
植物性油脂事業	2,073	2,711	+637
業務用チョコレート事業	3,347	3,709	+362
乳化・発酵素材事業	943	974	+32
大豆加工素材事業	349	329	▲21
事業利益	133	360	+228
植物性油脂事業	268	334	+66
業務用チョコレート事業	▲142	24	+166
乳化・発酵素材事業	17	11	▲6
大豆加工素材事業	▲8	▲9	▲1
連結調整	▲2	▲0	+2

事業別 事業利益



植物性油脂

- 上期には原材料価格の安定に伴い原料差益を確保。
- チョコレート用油脂(CBE)の販売は堅調に推移し、販売価格の上昇も増益に寄与。



業務用チョコレート

- コンパウンドチョコレートの販売は堅調に推移。
- ブラマーは米国チョコレート消費の減退に伴いピュアチョコレートの販売数量が減少したが、価格適正化に加えて、カカオ特殊要因の費用が減少。



乳化・発酵素材

- 原材料価格の上昇や、アジアでの需要低迷に伴う販売数量の減少により減益。



大豆加工素材

- 機能剤の販売数量が減少。

* 2025年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。2024年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

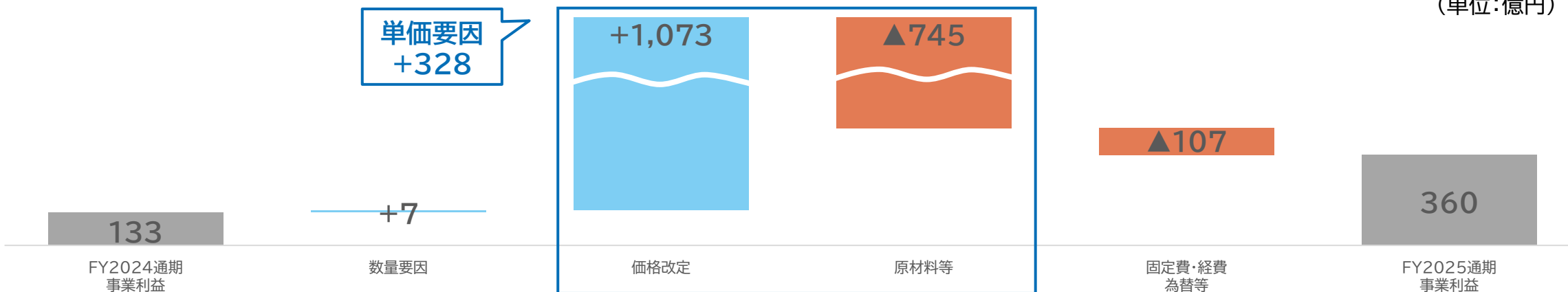
* 上記の連結業績は億円未満を四捨五入した数値を表示。

2025年度 通期事業利益増減分析

チョコレート用油脂(CBE)の需要拡大により、事業利益は228億円増益の360億円を達成。

前期比 事業利益増減分析

(単位:億円)



数量要因	業務用チョコレート事業ブラマーの販売数量が減少も、植物性油脂事業のCBEの販売数量増加が寄与。
単価要因	原材料価格の上昇に対応する販売価格適正化に加え、CBEの販売価格上昇が寄与。
固定費・経費・為替等	人件費等の固定費が上昇。

* 2025年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。2024年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

ブラマー業績

2025年度 ブラマー業績

(単位:億円)

	FY2024 通期実績	FY2025 通期実績	FY2025 通期修正予想	修正予想比
売上高	1,809	1,843	1,900	▲57
事業利益	▲311	▲114	▲84	▲30
内)カカオ特殊要因	▲305	▲104	▲95	▲9
カカオ特殊要因を除く事業利益	▲5	▲10	11	▲21

		FY2025 通期修正 予想	FY2025 実績	
カカオ 特殊 要因	先物 評価	—	—	2024年度第4四半期以降、 自社アカウントでのカカオ先物ポジションを縮減。
	販売 期ズレ	0億円	▲1億円	想定並みの着地。
	先物限月 乗換 コスト	▲95億円	▲103億円	販売数量の減少の影響を受け、 想定より損失が増加。
カカオ特殊要因を 除く事業利益		11億円	▲10億円	第4四半期に一過性の費用を計上したことに加え、 市況低迷を受け、顧客での在庫調整等の影響により、 販売数量が想定よりも減少。

- ✓ カカオ特殊要因は、2025年度第4四半期に影響が縮小。
- ✓ 2026年度は上期を中心に乗換コストを含むカカオ在庫が残るも、販売価格への転嫁により影響は限定的と想定。

* 2025年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。2024年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。
* 2025年度の通期修正予想は2026年2月の公表値。

2

2026年度 通期業績予想

2026年度 通期業績予想

(単位:億円)

	FY2025 通期実績	FY2026 通期予想	前期比
売上高	7,723	7,540	▲183
植物性油脂事業	2,711	2,638	▲73
業務用チョコレート事業	3,709	3,519	▲190
乳化・発酵素材事業	974	1,038	+64
大豆加工素材事業	329	345	+16
事業利益	360	375	+15
植物性油脂事業	334	243	▲91
業務用チョコレート事業	24	155	+131
乳化・発酵素材事業	11	16	+5
大豆加工素材事業	▲9	▲4	+5
連結調整	▲0	▲35	▲35
親会社の所有者に帰属する 当期利益	111	195	+84

売上高 **7,540** 億円 前期比 **▲183** 億円

原材料価格の下落に伴う、販売価格の下落を見込み減収を計画。

事業利益 **375** 億円 前期比 **+15** 億円

原材料価格の変動などの外部環境の変化が見られるが、業務用チョコレート事業での利益伸長を中心に増益を計画。

植物性油脂

チョコレート用油脂(CBE)の堅調な販売を見込むが、2025年度上期を中心に確保した原料差益は織り込まず減益を計画。

業務用
チョコレート

ブラマーにおける収益性改善に加え、各エリアで稼働を予定している新設備の効果により増益を計画。

乳化・
発酵素材

グローバルでの拡販に向けた製造最適化の推進に加え、挑戦領域製品群の販売拡大により増益を計画。

大豆
加工素材

高付加価値製品の拡販による収益性改善を中心に増益を計画。

当期利益 **195** 億円 前期比 **+84** 億円

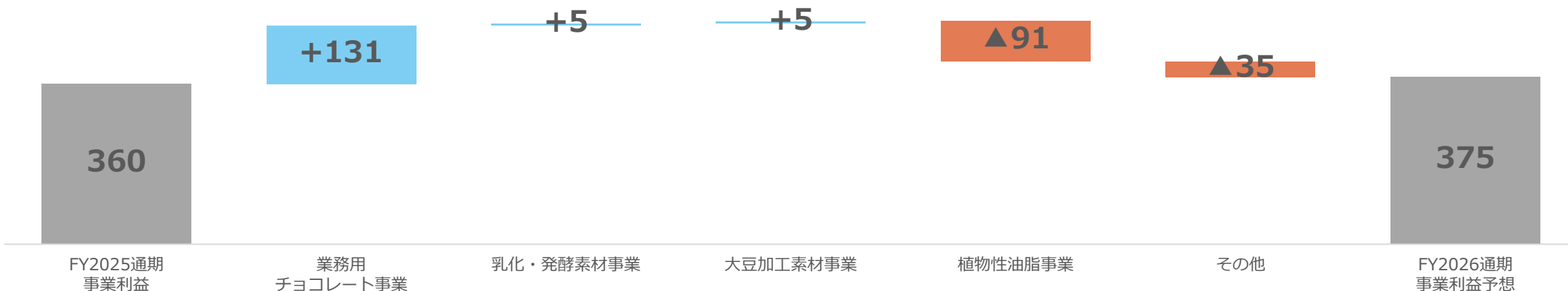
前年度のブラマーの減損損失等の反動に加え、事業利益の伸長により増益を計画。

2026年度 通期事業利益増減分析

ブラマーの収益性改善を中心とした業務用チョコレート事業での利益伸長により増益を目指す。

事業利益増減分析

(単位:億円)



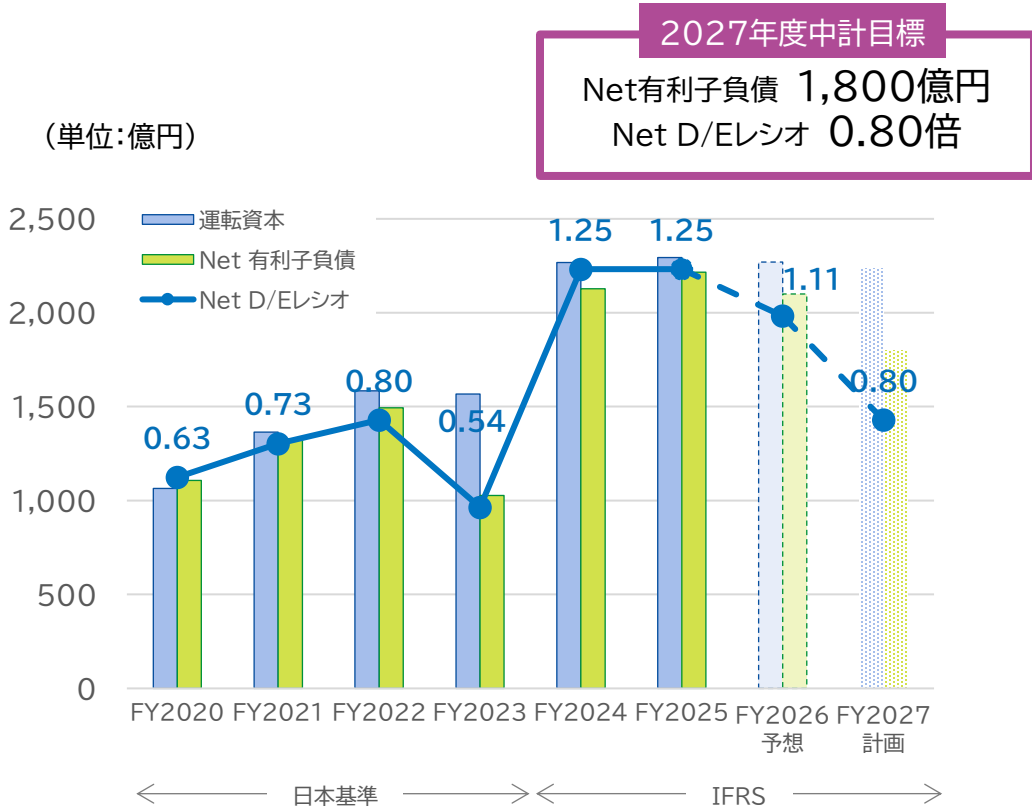
業務用チョコレート事業	ブラマーにおける収益性改善に加え、各エリアで稼働を予定している新設備の効果により増益を計画。
植物性油脂事業	チョコレート用油脂(CBE)の堅調な販売を見込むが、2025年度上期を中心に確保した原料差益は織り込まず減益を計画。
その他	中東情勢や米国関税、主原料相場変動、市場動向などのリスクを織り込む。

B/S、C/F

利益の伸長により営業キャッシュフローは大幅に改善し、黒字化。財務基盤の強化を進める。

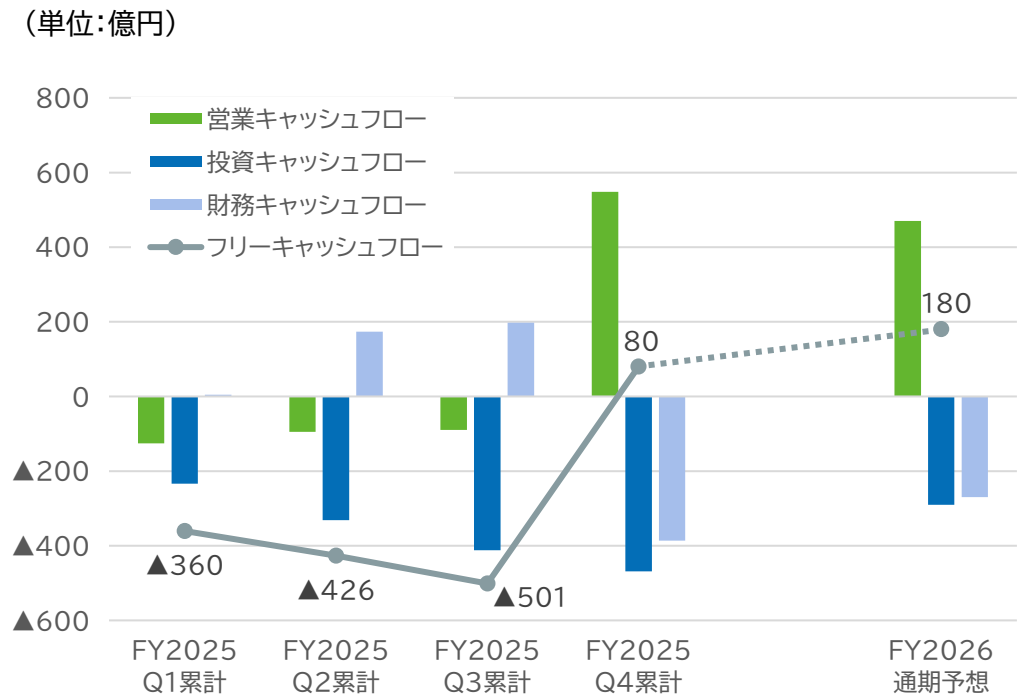
B/S

2025年度は事業投資等により、Net有利子負債が増加。中期経営計画の目標達成に向けて、運転資本の効率化とNet有利子負債の削減を進める。



C/F

利益の伸長、ブラマーにおける運転資本の改善により、2025年度第4四半期に営業キャッシュフローは大きく改善。2026年度も継続的な改善を見込む。

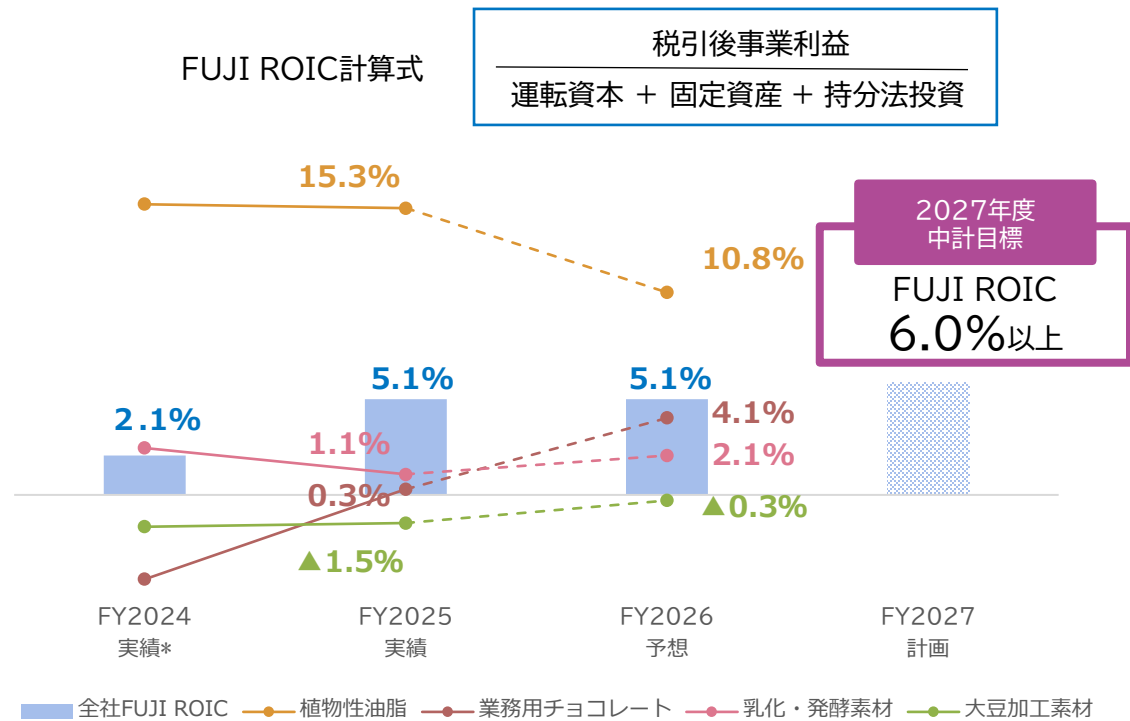


FUJI ROIC、配当方針

収益性改善が進みFUJI ROICは向上。利益伸長に伴い、2026年度は年間10円の増配を計画。

FUJI ROIC

各事業での収益性改善の取組みに加え、大豆加工素材事業での事業再編等により資本効率の向上を図る。



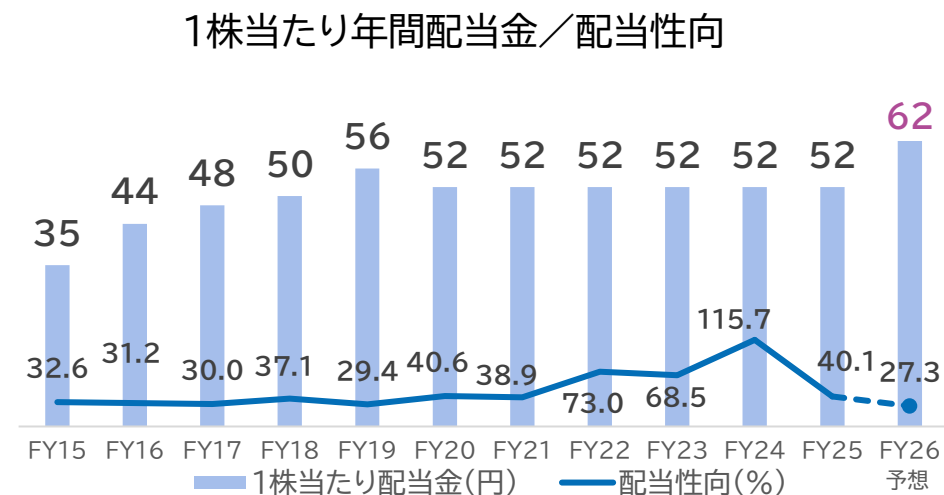
* 2025年度からのIFRS任意適用に伴い、FUJI ROICの算出式を変更。2024年度実績は、IFRSベースの事業利益に組み替えて算出。

配当

利益伸長に伴い、2026年度は年間10円の増配を計画。利益進捗や市場環境等を踏まえ、追加的還元を検討。

配当方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配当性向30%~40% ・ 安定的かつ継続的な配当を実施
------	---

FY2025 52円/年間 (期初計画どおり)
FY2026予想 62円/年間を計画



* 2024年度配当性向は、IFRSベースに組み替えて算出。

2. 2026年度 通期業績予想

通期:売上高・事業利益(事業別・所在地別マトリクス)

(単位:百万円)

売上高	年度	日本		欧米		アジア		連結計	
			YOY		YOY		YOY		YOY
植物性油脂	2026 予想(IFRS)	71,800	▲5,747	141,000	▲1,256	51,000	▲273	263,800	▲7,276
	2025 実績(IFRS)	77,547	+12,074	142,256	+45,771	51,273	+5,901	271,076	+63,747
	2024 実績(IFRS)	65,473	-	96,485	-	45,371	-	207,329	-
業務用 チョコレート	2026 予想(IFRS)	71,800	+2,996	231,900	▲20,755	48,200	▲1,244	351,900	▲19,004
	2025 実績(IFRS)	68,804	+10,850	252,655	+18,380	49,444	+6,988	370,904	+36,219
	2024 実績(IFRS)	57,953	-	234,275	-	42,455	-	334,684	-
乳化・発酵素材	2026 予想(IFRS)	64,500	+974	-	-	39,300	+5,394	103,800	+6,368
	2025 実績(IFRS)	63,526	+2,342	-	-	33,906	+837	97,432	+3,180
	2024 実績(IFRS)	61,183	-	-	-	33,068	-	94,252	-
大豆加工素材	2026 予想(IFRS)	33,800	+1,534	100	+66	600	+27	34,500	+1,626
	2025 実績(IFRS)	32,266	▲2,093	34	+33	573	▲6	32,874	▲2,066
	2024 実績(IFRS)	34,360	-	0	-	580	-	34,941	-
売上高計	2026 予想(IFRS)	241,900	▲244	373,000	▲21,946	139,100	+3,903	754,000	▲18,288
	2025 実績(IFRS)	242,144	+23,174	394,946	+64,184	135,197	+13,721	772,288	+101,080
	2024 実績(IFRS)	218,970	-	330,761	-	121,476	-	671,207	-

事業利益	年度	日本		欧米		アジア		連結調整		連結計	
			YOY		YOY		YOY		YOY		YOY
植物性油脂	2026 予想(IFRS)	8,500	▲4,292	7,800	▲1,520	8,000	▲4,302	-	+1,020	24,300	▲9,094
	2025 実績(IFRS)	12,792	+3,544	9,320	+1,205	12,302	+2,533	▲1,020	▲669	33,394	+6,612
	2024 実績(IFRS)	9,247	-	8,115	-	9,769	-	▲350	-	26,781	-
業務用 チョコレート	2026 予想(IFRS)	5,500	▲352	7,200	+15,111	2,200	▲1,755	600	+105	15,500	+13,109
	2025 実績(IFRS)	5,852	▲2,919	▲7,911	+19,704	3,955	▲1,979	495	+1,755	2,391	+16,560
	2024 実績(IFRS)	8,772	-	▲27,616	-	5,935	-	▲1,259	-	▲14,168	-
乳化・発酵素材	2026 予想(IFRS)	900	▲614	-	-	700	+1,259	-	▲189	1,600	+456
	2025 実績(IFRS)	1,514	▲339	-	-	▲559	▲593	189	+376	1,144	▲556
	2024 実績(IFRS)	1,853	-	-	-	33	-	▲187	-	1,700	-
大豆加工素材	2026 予想(IFRS)	100	+82	▲800	+191	300	+127	-	+75	▲400	+474
	2025 実績(IFRS)	18	+388	▲991	▲185	173	▲145	▲75	▲114	▲874	▲57
	2024 実績(IFRS)	▲369	-	▲806	-	318	-	39	-	▲817	-
連結調整	2026 予想(IFRS)	-	+24	-	+32	-	+68	▲3,500	▲3,617	▲3,500	▲3,492
	2025 実績(IFRS)	▲24	▲23	▲32	▲21	▲68	+18	117	+253	▲8	+226
	2024 実績(IFRS)	▲1	-	▲11	-	▲86	-	▲135	-	▲235	-
事業利益計	2026 予想(IFRS)	15,000	▲5,152	14,200	+13,816	11,200	▲4,604	▲2,900	▲2,607	37,500	+1,452
	2025 実績(IFRS)	20,152	+649	384	+20,703	15,804	▲166	▲293	+1,600	36,048	+22,787
	2024 実績(IFRS)	19,503	-	▲20,318	-	15,970	-	▲1,893	-	13,261	-

* 2025年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。2024年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

3

重点施策

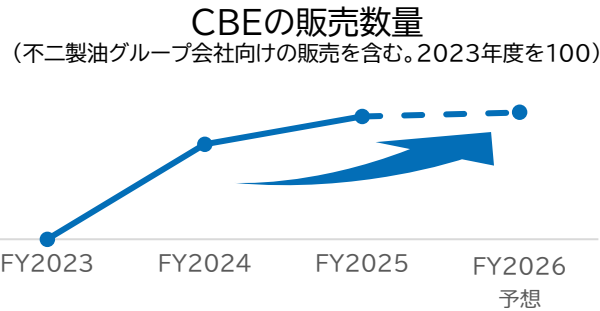
植物性油脂事業

チョコレート用油脂(CBE)は堅調な需要を見込む。中長期的な成長に向け、サプライチェーン強化を推進。

2026年度業績予想 事業利益 243 億円 (前期比 ▲91 億円)

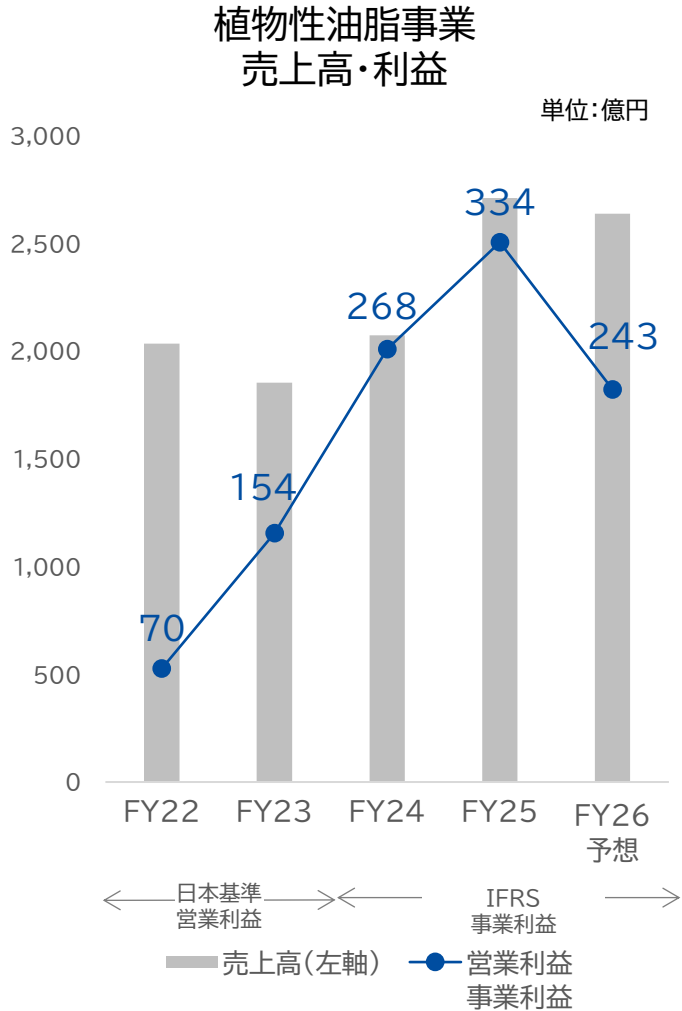
付加価値訴求によるCBEの収益性維持

カカオ価格高騰以降、需要の高まりが継続。品質や機能性、安定供給体制等の競争優位性を活かし、顧客ニーズへの対応を進める。



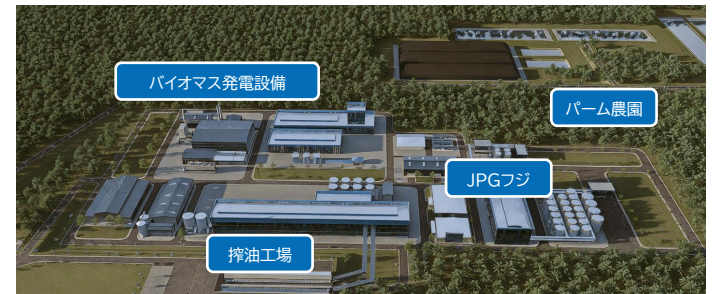
数量 2025年度は前期比106%。2026年度も堅調な需要を見込む。

収益 2025年度は高まる需要に応じた販売により収益性が向上。2026年度はカカオ価格の下落を踏まえて予想を作成。



サプライチェーン強化による高付加価値化の推進

2026年度下期よりJPGフジ*が稼働予定。パーム農園とパートナーシップ強化を進め、高品質でサステナブルな原料供給体制を強化。植物性油脂事業の中長期的な利益成長に向け、サプライチェーンの強化により付加価値向上を図る。



周辺環境を含めたJPGフジの完成イメージ図



* JPG フジ: Johor Plantations社との合弁会社で一次精製を行う油脂拠点(マレーシア)。

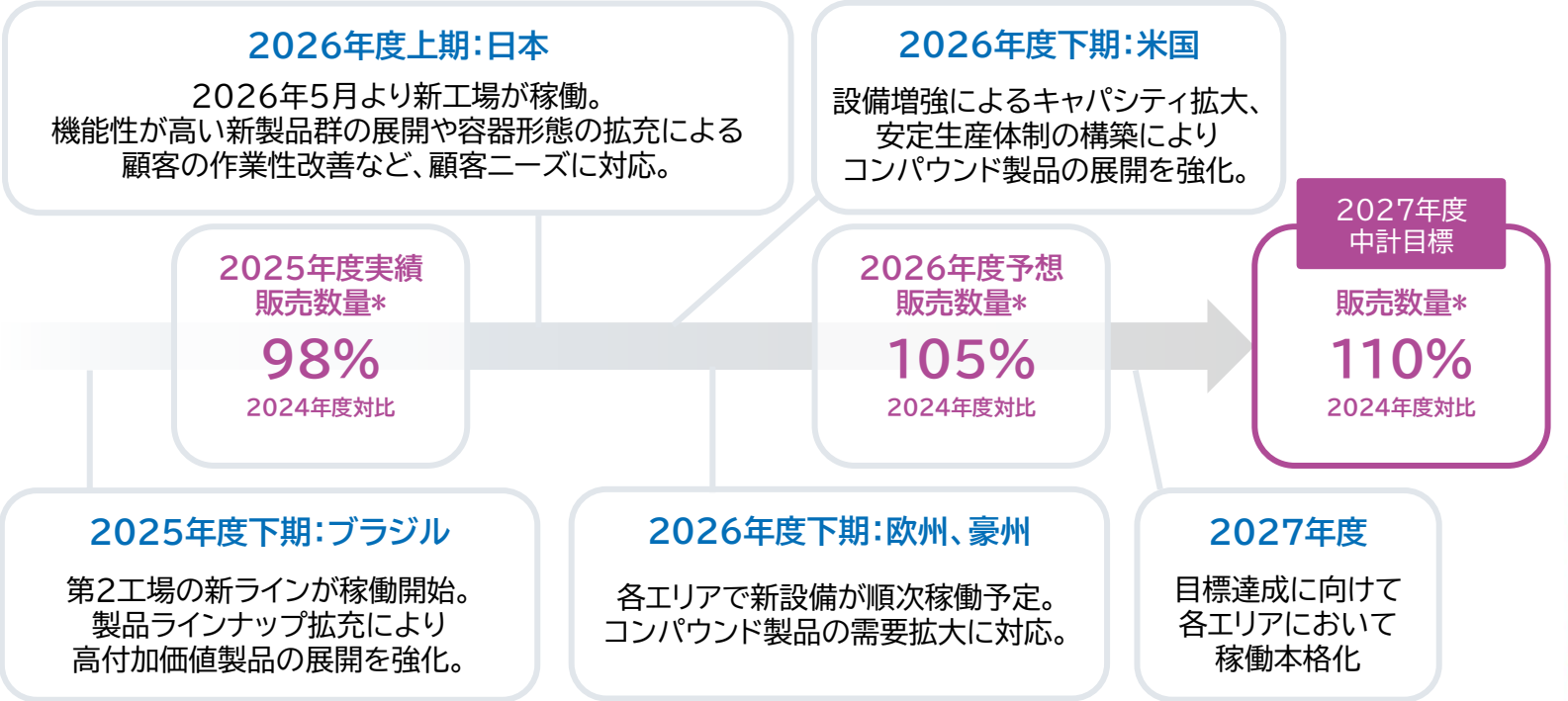
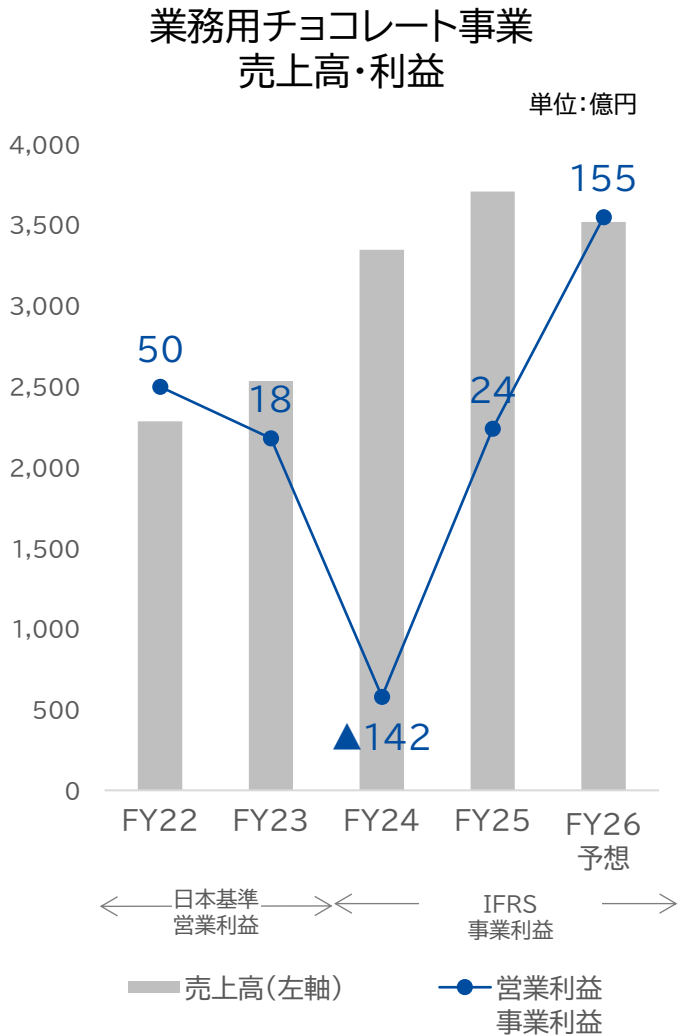
業務用チョコレート事業

各エリアで新設備が稼働開始予定。中期経営計画達成に向けて順調に進展。

2026年度業績予想 事業利益 155 億円 (前期比 +131 億円)

供給能力強化によるチョコレートの拡販

2026年5月に日本の新工場が稼働開始。その後も各エリアで新設備が順次稼働予定。供給能力の強化により中長期のチョコレート需要の拡大を捉え、拡販を図る。



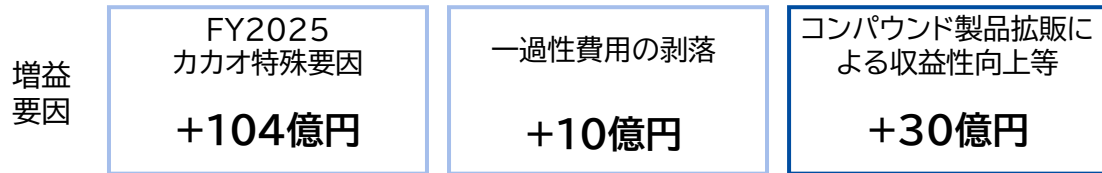
* 販売数量は、ブラマーのカカオ加工品を除き集計。

CBEコンパウンドを中心にコンパウンド製品の販売は進捗。収益性改善に向けて拡販を継続。

2026年度 ブラマー業績予想

(単位:億円)

	FY2025 通期実績	FY2026 通期予想	前期比
売上高	1,843	1,621	▲222
事業利益	▲114	30	+144



コンパウンド製品の拡販に向けた取り組み

環境認識

カカオ価格の下落・カカオ先物市場の落ち着き

米国におけるチョコレートの消費回復期待

施策

コンパウンド製品の拡販

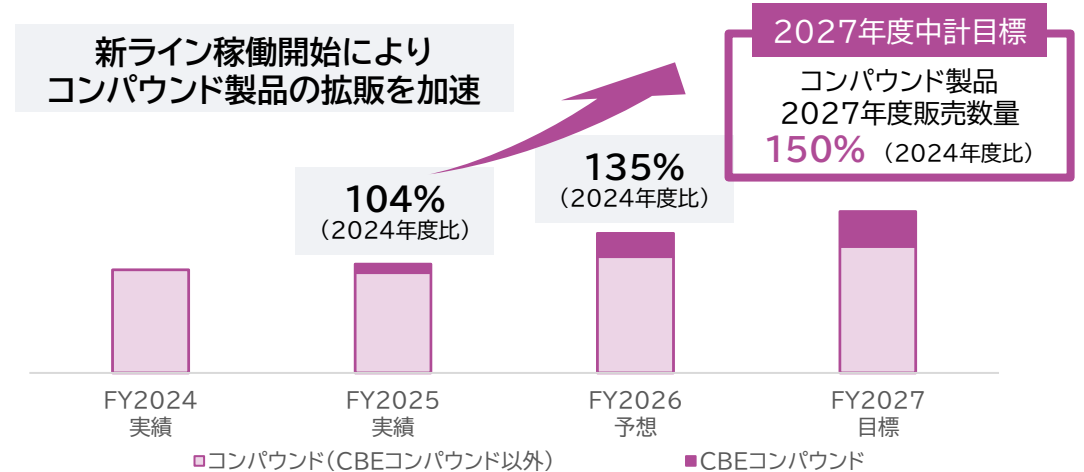
拡販施策の推進

- ・キャンベルフォード工場(カナダ)での新ライン稼働
- ・不二製油グループの油脂技術を活かした差別化戦略
- ・課題解決型提案の強化

体制整備

- ・開発・営業の人員拡充により販売体制を強化(駐在員派遣を含む)
- ・駐在員による支援強化を通じた主要工場の生産性向上

コンパウンド製品 販売数量



CBEコンパウンドの採用が増加し、2026年度の販売契約も計画通り進捗。機能性や付加価値を訴求し、販売数量の拡大を目指す。

乳化・発酵素材事業、大豆加工素材事業



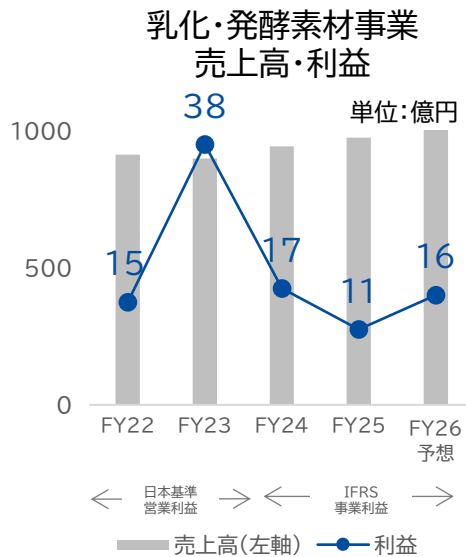
乳化・発酵素材事業

2026年度業績予想 事業利益16億円（前期比+5億円）

挑戦領域製品群の拡大

日本 新技術による挑戦領域製品群の開発・拡販。

海外 日本の技術を活用した挑戦領域製品群の拡充及び、グループ内販売・製造の最適化。



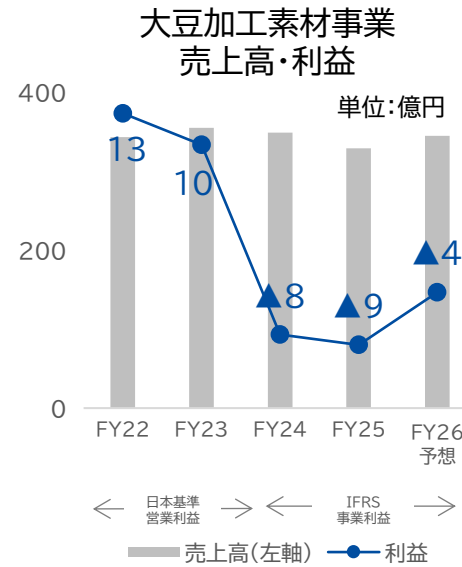
大豆加工素材事業

2026年度業績予想 事業利益▲4億円（前期比+5億円）

ニーズの高まりに対応し、拡販を推進

大豆たん白素材 動物性タンパク質不足や、タンパク質摂取ニーズの高まりに対し、顧客の課題解決に貢献する製品の提案を強化。

機能剤 機能剤の販売数量改善に向けて、拡販体制を強化。



大豆たん白素材の積極的な拡販を進め、販売数量増加により収益改善を推進。



大豆たん白素材を生産する千葉工場

挑戦領域の拡大

2025年度は挑戦領域製品群の拡充に注力。挑戦領域を事業の柱とすべく各事業、各エリアで取り組みを推進。

Melavio®(メラビオ)

植物性油脂事業の新ブランド。
2025年10月より展開開始し、採用が拡大。

CBEコンパウンド(ブラマー)

課題解決型の提案で採用が進捗。
新製造ラインの本格稼働により拡販を図る。

新しい
技術

新しい
市場

新しい
売り方

新たな挑戦領域の確立

事業・エリアに応じた、新規事業の確立と推進

植物ミルク発酵素材シリーズの 新ブランド「DEALI®(デアリ)」

植物原料(大豆、オーツ麦)を当社で丁寧に搾り、「発酵」という自然の力を活かして仕上げた、自然で軽やかな乳風味が特徴の植物ミルク発酵素材シリーズ。



課題解決型大豆たん白 「サンラバーSY2000」

ミキサーで均一な生地を作製できる大豆たん白素材を開発。
顧客における製造工程の簡略化(工程短縮・省人化)に貢献。
加工食品メーカーでの採用が進む。



食肉加工品等で採用が進捗

MIRA-Dashi®

動物性食品特有の風味や満足感を表現した植物性ダシ。
顧客のメニュー開発や作業工程改善に貢献。
製品ラインナップを順次拡大。



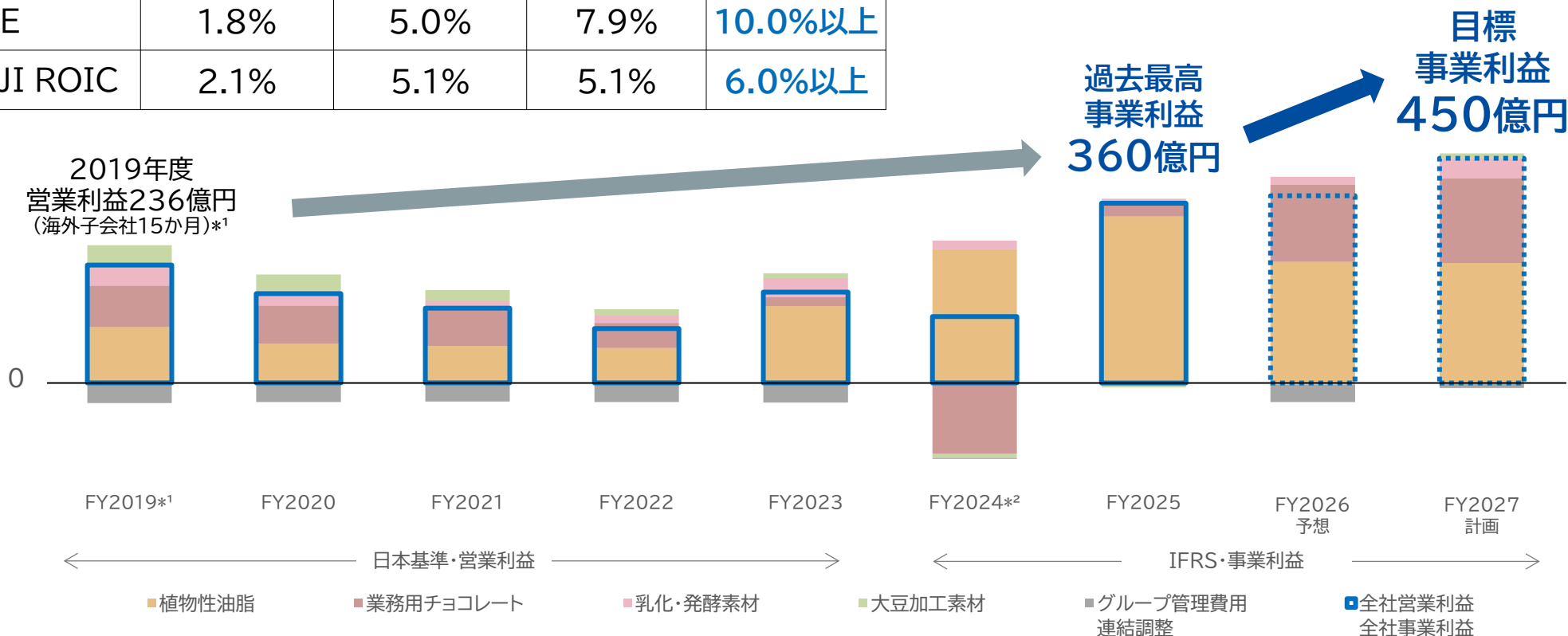
ペースト植物性ダシ-エビタイプ- 応用メニュー例(ビスクスープ)

中期経営計画の達成に向けて

2025年度は過去最高益を達成。中期経営計画の目標達成に向けて着実に進捗。

財務項目	FY2024 実績	FY2025 実績	FY2026 予想	FY2027 中計目標
事業利益	133億円	360億円	375億円	450億円
ROE	1.8%	5.0%	7.9%	10.0%以上
FUJI ROIC	2.1%	5.1%	5.1%	6.0%以上

業務用チョコレート事業の利益成長により、事業利益450億円の達成を目指す。



2019～2023年度実績は、日本基準の営業利益。2024年度以降はIFRSでの事業利益。

*1 2019年度は海外グループ会社19社の決算期の変更により、当該連結子会社は2019年1月1日から2020年3月31日までの15か月決算。

*2 2025年度よりIFRSを任意適用。2024年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

4

参考資料

注記

IFRSの任意適用について

- ・2025年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を適用。
- ・業績管理指標として「事業利益」を設定。

会計基準変更による影響 (単位:億円)

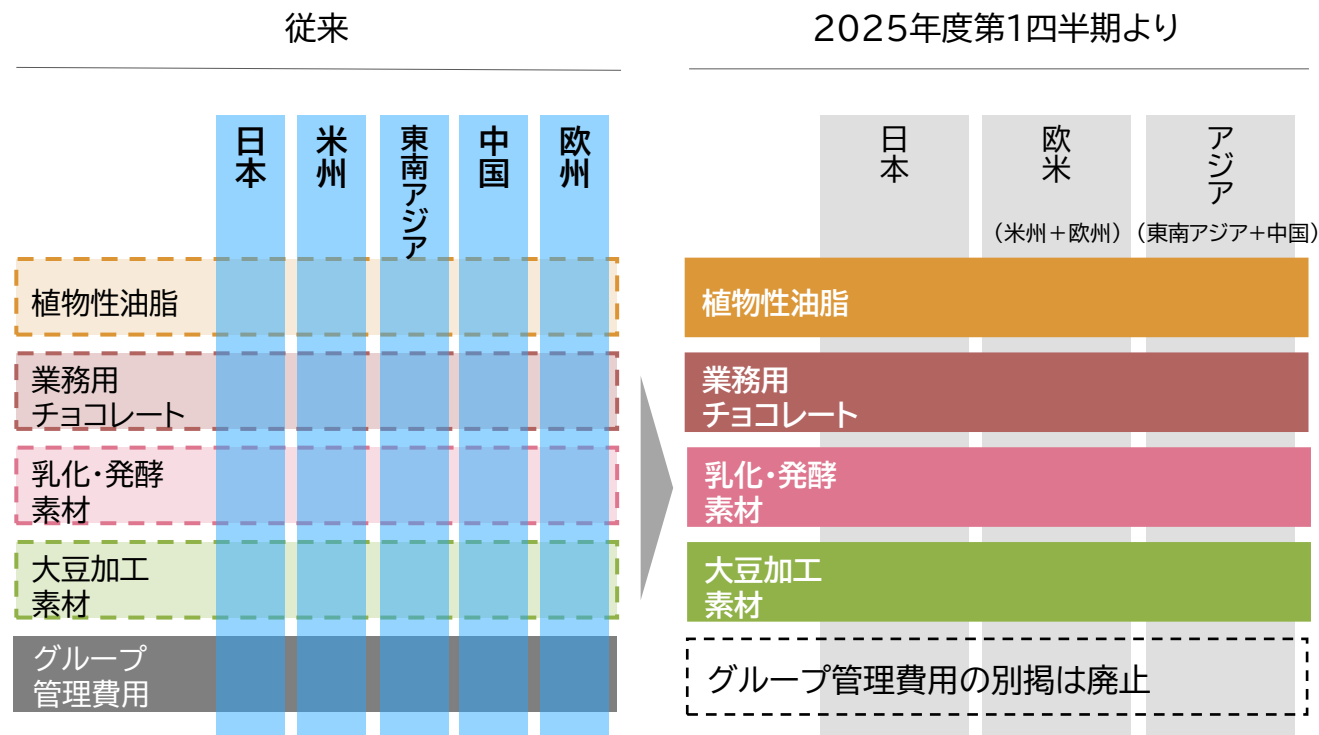
	FY2024 通期実績
営業利益(日本基準)	99
+ 会計基準差異の調整	+17
+ その他営業外収益/費用・為替差損益	+3
+ 持分法投資損益	+13
事業利益(IFRS)	133

為替レート

		2024年度	2025年度	前期比		2026年度 予想前提
		期末	期末	差	増減率	
\$	P/L	152.58	150.77	▲1.81	▲1.2%	153.00
	B/S	149.52	159.88	+10.36	+6.9%	-
BRL	P/L	27.26	27.76	+0.50	+1.8%	28.80
	B/S	26.04	30.63	+4.59	+17.6%	-
€	P/L	163.75	174.79	+11.04	+6.7%	177.00
	B/S	162.08	183.41	+21.33	+13.2%	-
人民元	P/L	21.10	21.25	+0.15	+0.7%	21.50
	B/S	20.59	23.11	+2.52	+12.2%	-

マネジメントアプローチに基づくセグメント情報の変更

- ・2025年度よりグループ本社制(純粋持株会社制)から事業持株会社制へ移行。
- ・マネジメントアプローチに基づき、事業損益の実態をより適切に反映させるため、2025年度よりグループ共通経費を各事業に配賦し、開示エリアは日本、欧米、アジアの3エリアに変更。



事業別業績推移



植物性油脂

(単位:億円)

売上高	日本基準			IFRS		
	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	223	290	492	457	477	632
Q2	247	326	522	471	490	687
Q3	252	347	523	469	550	698
Q4	262	385	498	457	556	694
通期	984	1,350	2,034	1,854	2,073	2,711

事業利益	日本基準			IFRS		
	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	18	21	16	31	44	90
Q2	16	22	17	44	64	96
Q3	22	14	19	42	72	80
Q4	23	17	18	37	82	67
通期	79	74	70	154	263	334



業務用チョコレート

(単位:億円)

売上高	日本基準			IFRS		
	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	353	417	479	550	736	876
Q2	398	459	576	616	823	927
Q3	470	502	619	701	861	1,023
Q4	404	477	611	667	927	883
通期	1,624	1,855	2,285	2,534	3,347	3,709

事業利益	日本基準			IFRS		
	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	20	11	10	4	29	▲33
Q2	8	17	17	3	▲95	▲2
Q3	26	24	14	▲10	▲113	49
Q4	22	23	9	21	21	10
通期	76	75	50	18	▲158	24

* 2020年度～2024年度は、日本基準の営業利益。2025年度以降はIFRSでの事業利益。
 * 2024年度まで全社費用としてセグメントに配分していないグループ管理費用を、2025年度よりセグメントに配分して記載。
 * 上記の業績は億円未満を四捨五入した数値を表示。

事業別業績推移



乳化・発酵素材

(単位:億円)

売上高	日本基準				IFRS	
	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	165	190	225	215	221	225
Q2	168	187	221	222	231	244
Q3	196	218	252	243	259	265
Q4	167	197	214	220	230	240
通期	696	791	912	899	942	974

事業利益	日本基準				IFRS	
	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	2	7	2	6	9	1
Q2	6	3	▲2	9	9	4
Q3	16	7	9	16	13	9
Q4	6	▲0	6	8	4	▲2
通期	30	16	15	38	34	11



大豆加工素材

(単位:億円)

売上高	日本基準				IFRS	
	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	86	90	83	89	90	85
Q2	87	85	86	91	91	80
Q3	88	86	89	92	89	85
Q4	83	80	85	83	81	78
通期	344	342	343	355	351	329

事業利益	日本基準				IFRS	
	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
Q1	12	11	6	4	3	▲0
Q2	9	6	4	6	5	1
Q3	6	3	4	3	▲0	▲3
Q4	5	0	▲1	▲2	▲1	▲6
通期	32	21	13	10	7	▲9

* 2020年度～2024年度は、日本基準の営業利益。2025年度以降はIFRSでの事業利益。
 * 2024年度まで全社費用としてセグメントに配分していないグループ管理費用を、2025年度よりセグメントに配分して記載。
 * 上記の業績は億円未満を四捨五入した数値を表示。

主要指標(PL項目)

主要指標

大項目	項目	単位	備考	IFRS					
				FY2024	FY2025(累計実績)				FY2026 予想
					1Q	2Q	3Q	4Q	
PL項目	事業利益	億円		133	57	154	288	360	375
	事業利益成長率	%		-	▲32.1%	131.6%	700.7%	171.8%	4.0%
	EBITDA	億円		308	96	240	433	512	-
	設備投資	億円	有形固定資産の設備投資	278	78	143	205	292	-
	減価償却	億円	有形固定資産の減価償却費	161	39	88	128	174	-
	ROA	%	税引前当期利益÷総資産	1.3%	* ³ 2.2%	3.6%	4.8%	3.8%	4.7%
	ROE	%	売上高純利益率×総資産回転率 ×財務レバレッジ	1.8%	6.3%	8.0%	9.8%	5.0%	7.9%
	売上高純利益率	%	親会社の所有者に帰属する当期利益÷売上高	0.6%	1.8%	2.3%	2.8%	1.4%	-
	総資産回転率	回	売上高÷総資産	1.25	1.21	1.20	1.22	1.25	-
	財務レバレッジ	倍	総資産÷親会社の所有者に帰属する持分	2.9	3.0	3.0	2.8	2.7	-
	ROIC	%	営業利益×(1-法人税率)÷(期末株主資本+有利子負債)	1.6%	2.7%	3.6%	4.5%	4.1%	-
	EPS	円		44.94	37.78	99.32	190.47	129.60	226.79

設備投資額	内訳	FY2025 累計実績
植物性油脂事業	欧米設備投資等	75
業務用チョコレート事業	ブラマー設備投資等	136
乳化・発酵素材事業	日本設備投資等	41
大豆加工素材事業	日本設備投資等	32
全社計		292

FUJI ROIC 税引後事業利益÷(運転資本+固定資産+持分法投資)	FY2025 実績	FY2026 予想
植物性油脂事業	15.3%	10.8%
業務用チョコレート事業	0.3%	4.0%
乳化・発酵素材事業	1.1%	2.1%
大豆加工素材事業	▲1.5%	▲0.3%
全社計	5.1%	5.1%

*¹ 過年度の実績値を遡及修正した場合は、当資料も遡及修正後の数値に基づき再表示。

*² 2025年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。2024年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。

*³ ROA、ROE、ROIC：年間換算した参考値を記載。

主要指標(BS・CF項目)

主要指標

大項目	項目	単位	備考	IFRS					
				FY2024	1Q	2Q	3Q	4Q	FY2026 予想
BS項目	総資産	億円		5,971	6,080	6,504	6,797	6,369	6,030
	有利子負債	億円		2,837	2,885	3,095	3,233	2,684	2,480
	NET有利子負債	億円		2,129	2,542	2,641	2,795	2,216	2,100
	運転資本	億円		2,267	2,355	2,421	2,708	2,294	2,270
	NET運転資本	億円	流動資産-流動負債	881	549	898	980	1,017	-
	親会社所有者帰属持分比率* ³	%		34.7%	33.9%	33.7%	35.2%	37.7%	42.0%
	負債比率	%		186.6%	193.2%	194.8%	182.6%	163.4%	-
	のれん(広義)* ⁵	億円	のれん(広義)とは、のれんに加え、商標権、 その他無形固定資産等を含んだもの	484	594	608	631	632	-
	のれん(広義)資本比率	%		23%	28%	27%	26%	26%	-
	D/Eレシオ	倍	有利子負債÷親会社の所有者に帰属する持分	1.37	1.40	1.41	1.35	1.12	0.99
Net D/Eレシオ	倍	Net有利子負債(有利子負債-現預金)÷株主資本* ⁴	1.25	1.48	1.49	1.53	1.25	1.11	
CF項目	営業キャッシュフロー	億円		▲488	▲126	▲95	▲90	548	470
	投資キャッシュフロー	億円		▲218	▲234	▲331	▲412	▲468	▲290
	フリーキャッシュフロー	億円		▲706	▲360	▲426	▲501	80	180
	財務キャッシュフロー	億円		1,132	5	174	198	▲386	▲270
	CCC	日		123	118	118	128	108	110

*¹ 過年度の実績値を遡及修正した場合は、当資料も遡及修正後の数値に基づき再表示。*² 2025年度第1四半期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用。2024年度の数値はIFRSベースに組み替えて表示。*³ 日本基準における自己資本比率。*⁴ 株主資本:親会社の所有者に帰属する持分 - その他の資本の構成要素*⁵ 新規連結会社の取得価格の確定に伴い、遡及修正。

4. 参考資料

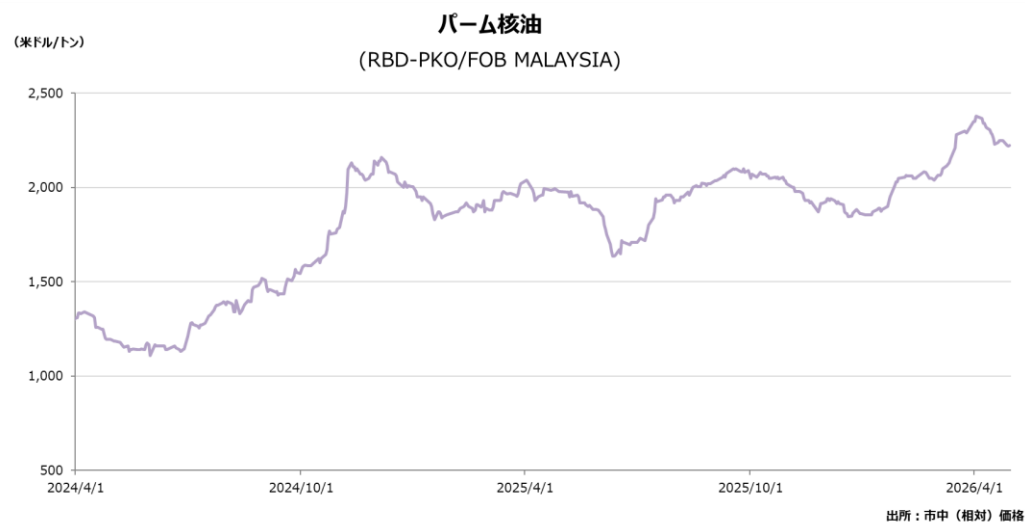
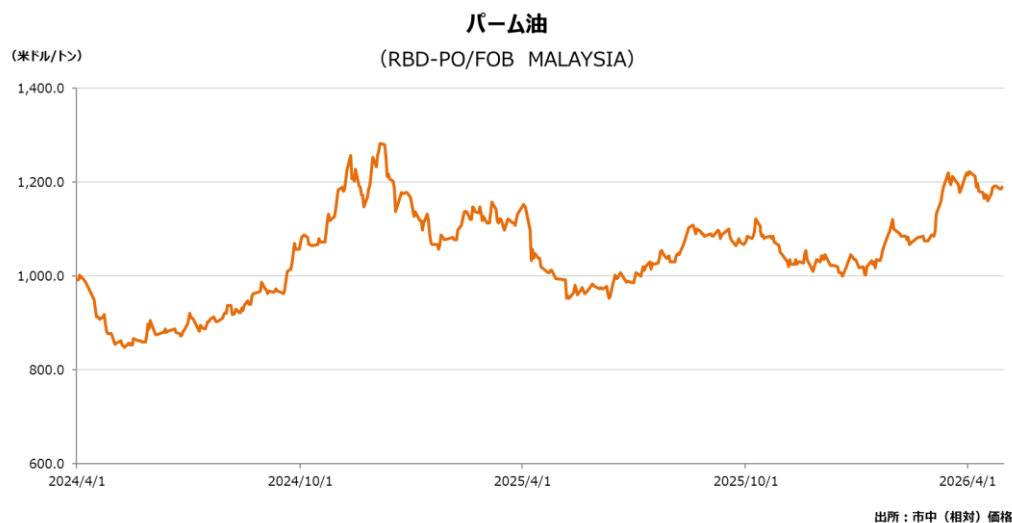
主要製品群の販売数量推移(前年同期比)

セグメント	エリア	製品群	FY2024 実績(四半期3カ月間の比較)					FY2025 実績(四半期3カ月間の比較)				
			1Q	2Q	3Q	4Q	Total	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
植物性油脂	日本	チョコレート用油脂 (CBE, CBR, CBS)	106%	106%	110%	101%	106%	102%	106%	110%	110%	107%
	米州		84%	89%	94%	75%	85%	76%	101%	62%	87%	81%
	東南アジア		104%	137%	117%	109%	116%	108%	77%	93%	92%	92%
	欧州		102%	94%	95%	90%	95%	112%	110%	98%	120%	110%
業務用 チョコレート	日本	チョコレート (カカオ製品含む)	103%	102%	99%	103%	102%	100%	97%	100%	95%	98%
	米州(ブラジル)		98%	99%	108%	105%	103%	125%	104%	107%	84%	102%
	東南アジア		117%	113%	107%	111%	112%	96%	100%	107%	110%	103%
	中国		110%	96%	118%	81%	101%	96%	103%	106%	143%	111%
	欧州		107%	101%	115%	81%	101%	94%	108%	87%	114%	100%
	合計(ブラマー除く)		106%	103%	106%	103%	105%	105%	102%	103%	97%	101%
	ブラマー		84%	77%	76%	78%	79%	87%	82%	86%	80%	84%
合計(ブラマー含む)	95%	91%	93%	93%	93%	97%	94%	97%	91%	95%		
乳化・発酵素材	日本	クリーム	98%	97%	93%	101%	97%	101%	104%	101%	103%	102%
		マーガリン ショートニング	101%	102%	100%	97%	100%	96%	96%	96%	98%	96%
	東南アジア	クリーム	97%	109%	118%	111%	109%	86%	101%	91%	85%	91%
	中国	マーガリン ショートニング	88%	95%	126%	92%	100%	117%	117%	81%	119%	106%
フィリング		104%	108%	95%	106%	103%	93%	98%	94%	92%	94%	
大豆加工素材	日本	大豆たん白素材	100%	102%	96%	100%	99%	99%	94%	103%	99%	99%
		機能剤	99%	92%	106%	96%	98%	89%	83%	79%	81%	83%

* 製品区分の見直し等により、過年度の実績値を遡及修正した場合は、当資料も遡及修正後の数値に基づき記載。

* 2024年度に決算期変更を実施したブラマーの販売数量推移は前年同月との比較。

主要原料推移（～2026年4月末）



市況

在庫量は高水準で推移するが、中東情勢を背景に原油高騰、バイオ燃料用途での需要増加も予想され、パーム油相場は上昇。

（強材料）

中東情勢に伴う原油価格高騰。
バイオ燃料用途での堅調な需要。

（弱材料）

マレーシアの在庫の高水準。

市況

ヤシ油相場の需給バランスが回復傾向も、パーム核油相場が中東情勢を背景とした原油高騰の影響により上昇。

（強材料）

中東情勢に伴う原油価格高騰。
インドネシアでの輸出税引き上げ懸念。

（弱材料）

生産が回復傾向にあるヤシ油相場との連れ安。

主要原料推移（～2026年4月末）



市況

世界的なチョコレート需要の減退により、相場の下落基調が継続。

(強材料)

弱材料の出尽くし感により反発する可能性。

(弱材料)

チョコレート需要減退。西アフリカにおける良好な天候。

市況

米国産大豆の中国向け輸出増加予想に加え、中東情勢を背景とした原油高騰の影響により、相場は上昇。

(強材料)

中東情勢に伴う原油価格高騰。

(弱材料)

ブラジル産大豆の豊作観測。

主なトピックス、ピックアップ

温室効果ガス排出量削減目標が「SBT1.5℃」認定を取得

不二製油株式会社は、サステナブルな食の未来の実現を目指し「不二製油グループ環境ビジョン」で設定した温室効果ガス排出量削減目標において、2025年12月にSBTイニシアチブ※1から科学的根拠に基づいた目標であるとしてSBT認定を取得しました。今回認定を取得した、不二製油グループの温室効果ガス排出量削減目標は、以下のとおりです。

Near-term(短期)目標

- Scope1+Scope2 ※2:2030年度までに温室効果ガス総排出量を42.0%削減(2020年度比)
- Scope3(カテゴリー1) ※3:2030年度までに「購入した製品・サービス」由来の温室効果ガス総排出量を25.0%削減(2020年度比)
- FLAG ※4:2030年度までにFLAG温室効果ガス総排出量を30.3%削減(2020年比)



今回認定を受けた温室効果ガス排出量削減目標では、削減対象を従来のCO₂から、GHG(温室効果ガス)全体へと拡大、Scope1+Scope2の短期目標においてWB2℃水準※5から1.5℃水準※6へと目標を引き上げました。さらに、新たに FLAG排出量の短期目標を設定しています。今後もより一層の省エネ、再生可能エネルギーの導入、新技術による製品開発など、幅広く高レベルな取組みを打ち出し、持続可能な社会に向けて貢献してまいります。

- ※1 SBT イニシアチブ (Science Based Targets initiative): CDP、国連グローバル・コンパクト、世界資源研究所(WRI)、世界自然保護基金(WWF)の国際的な共同イニシアチブ
- ※2 スコープ 1:事業者自らによる温室効果ガスの直接排出
スコープ 2:他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出
- ※3 スコープ 3(カテゴリー1): 事業活動に関連するサプライチェーンにおける間接排出の内、購入した製品やサービスに伴う排出
- ※4 FLAG:Forest, Land and Agriculture の略で、森林・土地・農業セクターに関する排出量が対象。FLAG 排出量は土地利用の変化、土地管理による温室効果ガスの排出や炭素除去から算出
- ※5 WB2℃水準: 世界全体の平均気温上昇を産業革命前に比べて 2℃を十分に下回る水準に抑えるため SBTi が定める科学的根拠に基づいた目標基準
- ※6 1.5℃水準: 世界全体の平均気温上昇を産業革命前に比べて 1.5℃に抑えるため SBTi が定める科学的根拠に基づいた目標基準

責任あるパーム油調達方針進捗レポート(2025年1月~6月)

責任あるパーム油調達方針のもと、NDPE ※1 達成に向け、活動を行っています。2025年1月から2025年6月までに実施したトレーサビリティ確保とサプライチェーン改善活動における進捗レポートを発行しました。

※1 NDPE:No Deforestation, No Peatland Development and No Exploitation

https://www.fujioil.co.jp/assets/20260327/20260327_jp_newsrelease.pdf



植物ミルク発酵素材シリーズの新ブランド「DEALI®(デアリ)」発売のお知らせ

不二製油株式会社は、乳製品に並ぶ新たな選択肢の一つとして、新ブランド「DEALI®(デアリ)」を立ち上げ、2026年4月より製品のシリーズ展開を開始しました。

DEALI®は、植物原料(大豆、オーツ麦)を当社で丁寧に搾り、「発酵」という自然の力を活かして仕上げた、乳原料不使用の植物ミルク発酵素材シリーズです。乳製品のような自然で軽やかな香りと、なめらかな質感が特長です。製菓製パン市場をはじめ、さまざまな用途で活用できる素材であり、植物ミルククリーム、植物ミルク発酵バター、植物ミルクチーズの3つのプロダクトを業務用に展開します。

引き続き当社は「課題解決型の企業」としてお客様の課題に寄り添い、乳化、発酵の知見をいかした製品開発を通じて、社会に貢献します。

<https://www.fujioil.co.jp/news/2026/20260421.html>

DEALI



写真左より、DEALI creamy, fresh, bright ※乳製品ではありません。

リンク先

IR情報サイト

<https://www.fujioil.co.jp/ir/>



統合報告書

<https://www.fujioil.co.jp/ir/library/integrated-report/>



Investor's Guide

https://www.fujioil.co.jp/en/pdf/ir/investorsguide_en.pdf



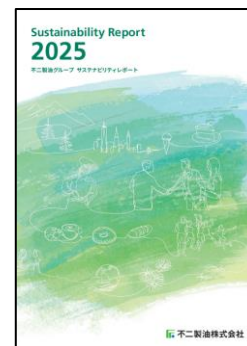
個人投資家の皆さまへ

<https://www.fujioil.co.jp/ir/individual/>



サステナビリティレポート

<https://www.fujioil.co.jp/sustainability/>



用語集

<https://www.fujioil.co.jp/ir/other/glossary/>

用語集

あ行 **か行** さ行 た行 は行 ま行 ら行 英数字

コンパウンドチョコレート

チョコレートの主原料のカカオ、乳、砂糖、油脂のうち、油脂に植物性油脂からつくられるチョコレート用油脂を用いて作られたチョコレート。
チョコレート用油脂を用いることで速乾性・耐熱性などの機能を持ち、パンや洋菓子など、広い用途に用いられる。ココアパウダーの含量が少ないココアを併用して使用することが多い。

関連「チョコレート」「チョコレート用油脂」



不二製油株式会社

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、予想の前提、予測を含んで記載しており、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。また、実際の業績は、今後様々な要因によって、異なる結果となる可能性があります。